

■使用評価マニュアル：北九州市建築物総合環境性能評価制度マニュアル

■使用評価ソフト：CASBEE北九州_2014(v2.0)

1 建物概要

建物名称	仮称 ユーウェブー枝マンション	BEE	0.7	BEEランク	B-	★★
------	-----------------	-----	-----	--------	----	----

2 重点項目への取組み度

重点項目	得点※/満点	取組み度	評価
1 循環型社会への貢献	2.8 /5		
2 地球温暖化対策の推進	3.2 /5		
3 豊かな自然環境の確保	1.3 /5		
4 高齢社会への対応	3.0 /5		
※ 対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)	評価 凡例	よい 4 点以上	ふつう 3 点以上
			がんばろう 3 点未満

3 設計上の配慮事項とCASBEEのスコア

使用CASBEE評価マニュアル: CASBEE-建築(新築) 2016年版	使用CASBEE評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v.2.1)
1 循環型社会への貢献	スコア平均 2.8
リサイクルに関する配慮 LR2/ 2 非再生性資源の使用量削減	長寿命化に関する配慮 Q2/ 2.2 部品・部材の耐用年数 スコア 2.9 Q2/ 3 対応性・更新性 スコア 2.8
<自由記述>	<自由記述> 更新間隔の長い配管材料を採用している。
2 地球温暖化対策の推進	スコア平均 3.2
省エネ・省資源に関する配慮 LR3/ 1 地球温暖化への配慮	節水に関する配慮 LR2/ 1.1 節水 スコア 3
<自由記述> ライフサイクルCO2排出率 88%	<自由記述> 節水型機器を採用している。
3 豊かな自然環境の確保	スコア平均 1.3
生態系保全に関する配慮 Q3/ 1 生物環境の保全と創出	緑化に関する配慮 Q3/ 3.2 敷地内温熱環境の向上 スコア 2 LR3/ 2.2 温熱環境悪化の改善 スコア 1
<自由記述>	<自由記述>
4 高齢社会への対応	スコア平均 3.0
バリアフリーに関する配慮 Q2/ 1.1.3 バリアフリー計画	主な指標 建物の外皮性能 (BPI評価) 非住宅:BPI値、住宅:省エネ等級 —
<自由記述> 福岡県福祉のまちづくり条例の整備基準をおおむね満たしている。	建物の一次エネルギー消費量 (BEI評価) 非住宅:BEIm値、住宅: — 0.31 外構緑化指數 2.59 % 建物緑化指數 0 %

: 入力欄

: CASBEE-建築(新築)の採点結果から転記してください。

CASBEE®-建築(新築) | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	仮称 ユーウェブ 一枝マンション	階数	地上8F
建設地	福岡県北九州市戸畠区土取町7-16	構造	RC造
用途地域	第一種中高層居住専用地域、防火	平均居住人員	75人
地域区分	6地域	年間使用時間	5,000時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2017年3月 竣工	評価の実施日	2017年3月6日
敷地面積	1,169 m ²	作成者	松井 司
建築面積	508 m ²	確認日	2017年3月6日
延床面積	2,192 m ²	確認者	川原 貴弘

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)		2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)		2-3 大項目の評価(レーダーチャート)	
BEE = 0.7 ★★					
Q 環境品質		Q のスコア = 2.4		LR のスコア = 3.1	
Q1 室内環境		Q2 サービス性能		Q3 室外環境 (敷地内)	
Q1のスコア = 2.4		Q2のスコア = 2.6		Q3のスコア = 2.1	
音環境 1.9 温熱環境 1.9 光・視環境 3.1 空気質環境 2.7		機能性 2.4 耐用性 2.7 対応性 2.8		生物環境 1.0 まちなみ 3.0 地域性・ 2.0	
LR 環境負荷低減性		LR のスコア = 3.1		LR3 敷地外環境	
LR1 エネルギー		LR2 資源・マテリアル		LR3のスコア = 2.6	
LR1のスコア = 3.7		LR2のスコア = 2.8		LR3のスコア = 2.6	
建物外皮の 2.0 自然エネ 2.0 設備シス 5.0 効率的 3.0		水資源 3.0 非再生材料の 2.8 汚染物質 3.0		地球温暖化 3.4 地域環境 1.5 周辺環境 3.1	

3 設計上の配慮事項		
総合 周辺の街並みに配慮した外観と室内の快適性・防犯性の高い住まいを計画した。		
Q1 室内環境 リビングの開口部を大きくする事で、積極的な日光利用を計画した。	Q2 サービス性能 更新間隔の長い配管材料を採用する事で、維持管理に配慮した。	Q3 室外環境 (敷地内) 街並みや風景にバランスよく調和される色彩の外観とした。
LR1 エネルギー LED照明の採用等により、一次エネルギー消費量の削減に配慮した。	LR2 資源・マテリアル 節水型機器の採用により、水資源の確保に配慮した。	LR3 敷地外環境 ・複層ガラスの採用により、CO ₂ 排出率の削減に配慮した。 ・目的に合った照度設定を行い、光害対策に配慮した。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフケーブルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフケーブルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2016年版
仮称 ユーウェブ 一枝マンション

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版
■欄に数値またはコメントを記入 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

スコアシート 実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄				
配慮項目		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質						
Q1 室内環境						
1 音環境						
1.1 室内騒音レベル						
1.2 遮音						
1 開口部遮音性能	T-2	5.0	1.00	5.0	0.30	
2 界壁遮音性能		-	-	1.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	1.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	1.0	0.20	
1.3 吸音		-	-	-	-	
2 溫熱環境						
2.1 室温制御						
1 室温		2.3	0.50	2.0	1.00	
2 外皮性能		2.0	0.63	-	-	
3 ゾーン別制御性		3.0	0.38	2.0	1.00	
2.2 湿度制御						
2.3 空調方式						
3 光・視環境						
3.1 昼光利用						
1 昼光率	昼光率3.5%以上	4.2	0.30	4.0	0.50	
2 方位別開口		5.0	0.60	5.0	0.50	
3 昼光利用設備		3.0	0.40	3.0	0.20	
3.2 グレア対策						
1 昼光制御		1.0	0.30	3.0	0.50	
3.3 照度						
3.4 照明制御						
4 空気質環境						
4.1 発生源対策						
1 化学汚染物質		3.0	0.60	3.0	0.63	
4.2 換気						
1 換気量		3.0	1.00	3.0	1.00	
2 自然換気性能		2.0	0.40	2.3	0.38	
3 取り入れ外気への配慮		1.0	0.50	3.0	0.33	
4.3 運用管理						
1 CO ₂ の監視		3.0	0.50	3.0	0.33	
2 喫煙の制御		-	-	-	-	
Q2 サービス性能						
1 機能性						
1.1 機能性・使いやすさ						
1 広さ・収納性		3.0	0.40	3.0	0.60	
2 高度情報通信設備対応		-	-	3.0	1.00	
3 パリアフリー計画		3.0	1.00	3.0	-	
1.2 心理性・快適性						
1 広さ感・景観		1.0	0.30	2.0	0.40	
2 リフレッシュスペース		-	-	3.0	0.50	
3 内装計画		1.0	1.00	1.0	0.50	
1.3 維持管理						
1 維持管理に配慮した設計		2.0	0.30	-	-	
2 維持管理用機能の確保		2.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性						
2.1 耐震・免震・制震・制振						
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		2.7	0.30	-	-	2.7
2 免震・制震・制振性能		3.0	0.50	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数						
1 転体材料の耐用年数	20年	3.0	0.80	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		2.9	0.30	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.20	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		2.0	0.10	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		4.0	0.10	-	-	
2.4 信頼性						
1 空調・換気設備		3.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備		2.0	0.20	-	-	
3 電気設備		1.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備		2.0	0.20	-	-	

3 対応性・更新性	3.1 空間のゆとり	階高2.9m以上	2.6	0.30	2.9	1.00	2.8
	1 階高のゆとり		-	-	2.8	0.50	
	2 空間の形状・自由さ		-	-	4.0	0.60	
	3.2 荷重のゆとり		-	-	1.0	0.40	
	3.3 設備の更新性		2.6	1.00	3.0	0.50	
	1 空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
	2 給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
	3 電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
	4 通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
	5 設備機器の更新性		1.0	0.20	-	-	
	6 バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	2.1
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.0	0.30	-	-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			2.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.1
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.7
1 建物外皮の熱負荷抑制			2.0	0.20	-	-	2.0
2 自然エネルギー利用			2.0	0.10	-	-	2.0
3 設備システムの高効率化	[BEI][BEIm] = 0.31		5.0	0.50	-	-	5.0
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			-	-	-	-	
4.1 モニタリング			-	-	-	-	
4.2 運用管理体制			-	-	-	-	
集合住宅の評価			3.0	1.00	-	-	
4.1 モニタリング			3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制			3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	2.8
1 水資源保護			3.0	0.20	-	-	3.0
1.1 節水			3.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	1.00	-	-	
2 雜排水等利用システム導入の有無			-	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			2.8	0.60	-	-	2.8
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			3.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			2.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			3.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.20	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.70	-	-	
1 消火剤			-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)			3.0	1.00	-	-	
3 冷媒			-	-	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	2.6
1 地球温暖化への配慮	ライフサイクルCO2排出率 88%		3.4	0.33	-	-	3.4
2 地域環境への配慮			1.5	0.33	-	-	1.5
2.1 大気汚染防止			-	-	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			1.0	0.67	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.6	0.33	-	-	
1 雨水排水負荷低減			3.0	0.33	-	-	
2 污水処理負荷抑制			-	-	-	-	
3 交通負荷抑制			3.0	0.33	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制			2.0	0.33	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.1	0.33	-	-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1 騒音			3.0	1.00	-	-	
2 振動			-	-	-	-	
3 悪臭			-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制			3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制			3.0	-	-	-	
3 日照阻害の抑制			3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			3.7	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	照明目的に合った照度設定を行った。広告物照明無し。		4.0	0.70	-	-	
2 星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	-	